

## 故・高田賢三の遺作となった衣裳デザインが舞台を彩る

### 欧米で絶賛された宮本亜門演出オペラ『蝶々夫人』 凱旋公演チケット発売

～古楽界の巨匠・鈴木秀美を指揮に迎える『デイダミア』も同時発売～

『蝶々夫人』 公演日：2024年7月18日(木)～21日(日) 会場：東京文化会館 大ホール

『デイダミア』 公演日：2024年5月25日(土)、26日(日) 会場：めぐろパーシモンホール 大ホール

2023年12月23日(土) チケット一般発売開始

2020年10月新型コロナ・ウイルス感染による合併症で惜しくもこの世を去った世界的デザイナー高田賢三。公益財団法人東京二期会は、高田氏の最後の作品となった衣裳によるオペラ『蝶々夫人』を、2024年7月18日(木)から21日(日)までの4日間、東京文化会館大ホールにおいて開催いたします。本公演に向け12月23日(土)よりチケットの一般発売を開始いたします。演出は、宮本亜門。本プロダクションは、2019年東京でワールドプレミア公演を行い、その後、ザクセン州立歌劇場（ゼンパーオーバー・ドレスデン）、サンフランシスコ歌劇場での公演を経て、今夏、東京に凱旋いたします。指揮はダン・エッティンガーが務めます。

また同時に、2024年5月25日(土)、26日(日)にめぐろパーシモンホール大ホールで開催する二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『デイダミア』のチケットも発売いたします。

#### 高田賢三「『蝶々夫人』は私にとって憧れのオペラ」…日本が世界に誇るクリエイターによるオペラ

高田氏は、生前「『蝶々夫人』は私にとって憧れのオペラ」「“蝶々さん”でオペラの真の魅力を知った」と語っていました。その衣裳デザインが初めて舞台に降り立ったのは2019年10月東京。ミュージカル、ストレートプレイだけでなく、オペラ演出においても、ドイツ、オーストリア、フランス、アメリカとグローバルな活躍をみせる宮本亜門の演出で、高田氏のほか世界的クリエイターが集結して、ワールドプレミア（新制作世界初演）を迎え、大きな評判を呼びました。



2019年新制作記者会見より  
左から宮本亜門、高田賢三

衣裳 高田賢三  
©MASARU MIZUSHIMA



2019年東京ワールドプレミア公演より © 三枝近志

その後、2022年4月には、ドイツの名門オペラハウス、ゼンパーオーバー・ドレスデンで欧州プレミア、翌年6月にはサンフランシスコ歌劇場で北米プレミアが果たされ、各地で絶賛を浴びました。

そして、2024年7月、再び東京に！ 指揮は、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者のダン・エッティンガー。東京二期会のキャストも、全世界で100公演以上にわたり蝶々さん役を重ねてきた国際的ソプラノ大村博美の題名役をはじめ万全の布陣で、この度の凱旋公演をお贈りいたします。



演出 宮本亞門



指揮 ダン・エッティンガー  
©Froehlingsdorf



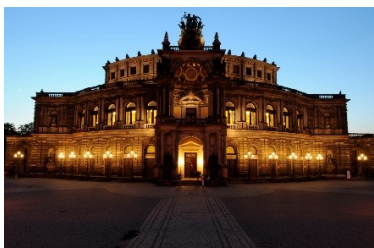
2019年公演より 蝶々夫人 大村博美  
©三枝近志

2020年10月、衣裳デザインの高田氏が新型コロナウイルスによる合併症により、パリ郊外で亡くなりました。「憧れ」と語っていた『蝶々夫人』の衣裳は、世界のファッション界に数多の業績を残した氏の、最後の仕事のひとつとなりました。私どもは、この『蝶々夫人』上演を通して、その美しい衣裳の数々を多くの方にご覧いただきたいと願っております。



2019年公演より ©三枝近志

## 欧米の名門歌劇場で絶賛！～海外公演評より



ゼンパーオーバー・ドレスデン  
©Semperoper Dresden/Matthias Creutziger



サンフランシスコ歌劇場  
©JoelPuliatti

ゼンパーオーバー・ドレスデン、サンフランシスコ歌劇場公演でも高く評価された宮本亞門演出『蝶々夫人』。海外の公演評の一部をご紹介します。

- 高田賢三氏がデザインした女声合唱たちの衣裳はとても煌びやかだった。（オペラ・トゥデイ）
- これほど生き生きとした『蝶々夫人』を観たのは初めてだった。宮本亞門は、この物語をほとんど崇高なものにすることに成功した。これは決して小さからぬ成果だ。（ステージ&シネマ）
- 宮本亞門は、プッチーニが楽譜に残した複雑な舞台や映画的な性質を魅力的に浮き彫りにした。（Opera Warhorses）
- 蝶々さんとピンカートンの成人した息子の視点から再発見される宮本亞門の新演出『蝶々夫人』は、単なる語り直しから際立っている。宮本は、その偉大な努力によって、国や民族をこえて、蝶々さん、ピンカートンら個人の運命を物語ることに成功したのだ。（Opernwelt）



## 蝶々夫人役



大村博美

2019年の初演の時の、公演後の関係者全員の輝く笑顔を昨日の事のように思い出します。大好きな賢三さんの唯一無二の、美しく可愛く気品ある衣裳を身に着け、亞門さんの斬新な演出で、また再びこの蝶々さんができるのを心から嬉しく光栄に思います。今回は東京公演の後、賢三さんデザインの緞帳のある姫路のホールでも公演できることも楽しみです。天国から賢三さんも喜んで応援して下さる事でしょう！



高橋絵理

敬愛する役である蝶々さんを、東京二期会の公演で出演させていただくことになり大変嬉しく思います。15歳の女の子とは思えない蝶々さんの神聖な言葉の数々は、何度歌っても心が震えます。世界各地で上演され東京へ帰ったこの熟成されたプロダクションで、凛とした女性を生き抜きたいと思います。ぜひ会場で、生の息遣いをご体感ください！

## スズキ役



花房英里子

2019年に続いて出演できますこと、大変嬉しく存じます。スズキは、女中でありながら、蝶々さんの一番の理解者であり、彼女の幸せをいつも祈っています。亞門さんの演出は、「愛」が色濃く描かれています。親子の愛、男女の愛、スズキの蝶々さんや子どもへの愛。それは、現代に生きる我々にも通ずるもので、今作品を何度も観ている方にも、初めて観る方にも、きっと沢山の共感を得ていただけたと思います。ぜひ、劇場で生のエネルギーを感じてください！



小泉詠子

情に厚く、責任感の強いスズキ。そして冒頭のお喋りのシーンから分かるように、本来、スズキは話好きで肯定的な性格なのではないかと思えます。だからこそ、苦しい状況になっても最後まで蝶々さんを信じ、支え続けることができた…そして何より、「お側でお仕えし続けたい」と思う魅力が、蝶々さんにはあるのだと思えます。私が動き、声を重ねることによって蝶々さんの魅力がより豊かに伝わると良いなと思っています。

## ピンカートン役



城 宏憲

理想のピンカートン像を求めて、この役を演じる時は常に自分に向けて「これで良いのか？」と問いかけてきました。その豊かさ、無邪気さ、そしていつも頭を悩ませるのが愚かさの表現です。今回は、宮本亞門さんが描く、また新しいピンカートン像に触れる事が出来ます。これまでの舞台の経験と合わせて、まるで星条旗で全身を包まれている様なオーラを放つ、より強烈な若きアメリカ人士官を作っていきたいと思っています。



古橋郷平

東京二期会で『蝶々夫人』ピンカートン役をさせていただくのは、2017年以來の2回目になります。その時演出していただいた栗山昌良先生はお亡くなりになってしまったので、もう二度と先生の舞台を経験できないと思うと、本当に貴重な経験をさせていただいたので感謝しています。今回は宮本亞門さんの演出ということで、宮本亞門さんとは、今回が初めてご一緒させていただきますので、楽しみにしております。共演者の皆さんと素晴らしい舞台を創れたらと思います。



### 今井俊輔

何度演じていても演出家やマエストロ、キャストのあり方によって性格が180度変わることのできるシャープレス。今回のシャープレスがどんな性格になるか、立場になるか。楽しみでなりません。



©永友ヒロミ

### 与那城敬

改めてシャープレスという役を考えると、この人ほど「葛藤」「抑制」という言葉が似合う人はいないのではと思います。彼は外交的な冷静さを保ちながらも、蝶々夫人やピンカートンたちの人間ドラマに巻き込まれていきます。また領事として下さざるをえない決定と、その決定が倫理的な側面からどれだけ難しいものであるかということ。これらの葛藤を抱えながらも、如何に抑制を効かせて理性的に言葉を発することが出来るか、彼の深い人間性に焦点を当てて演じていければと思います。

## オペラ初心者の方にもおすすめ！プッチーニ没後100周年に贈る～名作オペラ『蝶々夫人』

オペラ『蝶々夫人』は、日本の長崎を舞台とした感動の名作です。イタリアオペラを代表する大作曲家ジャコモ・プッチーニの傑作のひとつで、1904年ミラノ・スカラ座で初演されました。

時代は明治初期。没落した藩士の娘・蝶々さんとアメリカ海軍士官・ピンカートンとの悲恋が描かれます。日本民謡の旋律などが随所に取り入れられた色彩豊かなプッチーニの音楽は、とてもドラマティックかつ抒情的で、オペラ初心者の方でもなじみやすくお楽しみいただけます。イタリアオペラにして、日本の文化風土との融合を豊かに感じられる貴重な作品ですが、同時に、その物語のテーマは普遍的で、蝶々さんたちの、愛を信じることの強さと苦悩には、多くの方が深い感動を覚えることでしょう。

2024年は作曲者プッチーニの没後100周年にあたります。この記念の年に、『蝶々夫人』の公演をとおして、プッチーニが音楽に込めた魂を皆様にお伝えすることができれば幸いです。

### 《ものがたり》

舞台は長崎。港を見下ろす丘の上に十五才の少女、蝶々さんの家があった。没落した武家の娘である蝶々さんは、今は芸者として暮らしていた。そこに、若いアメリカ海軍士官ピンカートンが現れ、蝶々さんに優しく愛を語った。辛い境遇にいた蝶々さんは、救われる気持ちで彼に惹かれて、二人は結婚式を挙げるのだった。

やがてピンカートンは日本での配属を終えて帰国する。蝶々さんはピンカートンの帰りを信じて待っていた。そして、三年の月日が流れた……

## 高田賢三の故郷・姫路でも公演が決定！

2024年7月27日(土)、衣裳デザイナー高田賢三の生まれ故郷、姫路市でも『蝶々夫人』の公演が決定しました（主催：公益財団法人姫路市文化国際交流財団）。

会場となる姫路市文化コンベンションセンター（アクリエひめじ）は姫路市の劇場文化の中心地です。大ホール、中ホールで使われる緞帳はともに高田賢三デザインによるもので、開幕前の期待感を膨らませています。世界的デザイナーゆかりの地でも開催される『蝶々夫人』にどうぞご期待ください。

姫路公演についてのお問合せは、公益財団法人姫路市文化国際交流財団 制作チーム（TEL.079-284-5806）までお願いいたします。

東京二期会オペラ

プッチーニ『蝶々夫人』

指揮：ダン・エッティンガー

演出：宮本亞門

衣裳：高田賢三

合唱：二期会合唱団

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

\*キャストは東京公演7/18・20組が出演

公演日：2024年7月27日(土)14:00開演

会場：アクリエひめじ 大ホール

(兵庫県姫路市神屋町143-2)

TEL.079-263-8082

主催：公益財団法人姫路市文化国際交流財団





指揮 鈴木秀美

東京二期会は、2024年5月25日(土)、26日(日)にめぐろパーシモンホール 大ホールにて、古楽界の世界的名匠・鈴木秀美指揮、二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『デイダミーア』公演を開催いたします。

「二期会ニューウェーブ・オペラ劇場」は、東京二期会が3年に1度、二期会オペラ研修所を修了して3年以内のフレッシュな若手歌手を中心にキャスティングし開催するオペラ・シリーズです。2015年からは、指揮に古楽界最高峰のチェリストでもある鈴木秀美を迎えて、オーケストラも本シリーズのために、古楽界のエキスパートを各パートのトップに揃えた「ニューウェーブ・バロック・オーケストラ・トウキョウ (NBO)」を特別に結成し公演してきました。

演目では、2015年『ジュリオ・チェーザレ』から始まり、『アルチーナ』『セルセ』と、これまで連続してゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルのオペラを取り上げてきました。本格的なバロック・オペラの演奏に、若手キャストならではのエネルギー溢る舞台が評判を呼び、年々その人気が高まっています。

**東京二期会のフレッシュな歌手陣が歌い踊る！現代ダンスの旗手・中村蓉の演出との協働で生まれる、躍動感あふれるバロック・オペラの舞台**



演出 中村蓉

鈴木秀美指揮となって4回目となる今回は、ヘンデル『デイダミーア』を上演します。ヘンデルは、この作品を最後にオペラの筆を置き、オラトリオの作曲に向かいますが、『デイダミーア』の翌年に作曲されたのが、あの名曲「メサイア」。つまり『デイダミーア』はまさにヘンデルの全盛期に書かれた奇跡のオペラなのです。国内で上演されることがほとんどないことから、今回が希少な全幕上演となります。

演出は、前回公演『セルセ』で大好評を得た現代ダンスの若き旗手のひとり中村蓉が引き続き担当。フレッシュな歌手とともに、躍動感にあふれる舞台をお贈りします。

オペラ『デイダミーア』の物語について

古代ギリシア神話に登場するトロイア戦争の英雄アキッレ（アキレウス）とその恋人デイダミーア（デイダメイア）の物語。「トロイア戦争でアキッレは命を落とす」との予言を受けたアキッレの父親は、息子に女装をさせスキューロス島に匿う。アキッレはこの島で王妃デイダミーアと出会い、恋に落ちる。しかし、戦線ではギリシア軍の旗色悪く、ついに将軍ウリッセ（オデュッセウス）が戦況打開のためアキッレを戦場に連れ出すべく、島に到着する…



ザクセン州立歌劇場(ゼンパーオーバー・ドレスデン)、  
デンマーク王立歌劇場およびサンフランシスコ歌劇場との共同制作  
東京二期会オペラ劇場

## プッチーニ『蝶々夫人』

オペラ全3幕 日本語字幕付き原語(イタリア語)上演

東京文化会館 大ホール

2024年7月18日(木)18:30、19日(金)14:00、20日(土)14:00、21日(日)14:00

※開場は開演の60分前 ※上演時間:約3時間(休憩1回含む)

指揮:ダン・エッティンガー

演出:宮本亞門

衣裳:高田賢三

装置:ボリス・クドルチカ 照明:喜多村 貴 映像:バルテック・マシス 美粧:柘植伊佐夫

合唱指揮:糸原裕介 演出助手:澤田康子、彌六

舞台監督:村田健輔 公演監督:永井和子 公演監督補:大野徹也

配役	7月18日(木)/20日(土)	7月19日(金)/21日(日)
蝶々夫人	大村博美	高橋絵理
スズキ	花房英里子	小泉詠子
ケート	杉山由紀	石野真帆
ピンカートン	城 宏憲	古橋郷平
シャープレス	今井俊輔	与那城 敬
ゴロー	近藤 圭	升島唯博
ヤマドリ	杉浦隆大	小林由樹
ボンゾ	金子 宏	三戸大久
神官	大井哲也	菅谷公博

合唱:二期会合唱団

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

チケット料金(全席指定・税込)

●7月19日(金)、20日(土)、21日(日)公演

S20,000円 A16,000円 B12,000円 C9,000円 D6,000円 学生2,000円

●7月18日(木)公演は「プレミア・スペシャル料金」=S~B席 各1,000円引き

※チケットお申込みと同時に「二期会オペラ愛好会」へもご入会いただけます。

発売日:二期会オペラ愛好会先行予約 2023年12月16日(土)~

一般発売 2023年12月23日(土)~

チケットのご予約・お問合せ:二期会チケットセンター

TEL.03-3796-1831(月~金=10:00-18:00/土=10:00-15:00/日・祝=休)

<https://nikikai.jp/ticket> 「二期会チケット」で「検索」

その他プレイガイド

チケットスペース 03-3234-9999 <https://www.ints.co.jp> 「チケットスペースオンライン」で「検索」

イープラス <https://eplus.jp/>

チケットぴあ <https://pia.jp/> (Pコード:257-720)

ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード:36093)

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

支援:宗次未来基金

主催:公益財団法人東京二期会

## ヘンデル『デイダミーア』〈新制作〉

オペラ全3幕 日本語字幕付き原語（イタリア語）上演

めぐろパーシモンホール 大ホール

2024年5月25日(土)17:00、26日(日)14:00

※開場は開演の60分前

指揮：鈴木秀美

演出：中村 蓉

装置：原田 愛 衣裳：田村香織 照明：喜多村 貴

合唱指揮：根本卓也 声楽アドバイザー、原語指導：櫻田 亮 ドラマトウルク：萩原里香

舞台監督：幸泉浩司 公演監督：大島幾雄 公演監督補：永井和子

配役	5月25日(土)	5月26日(日)
デイダミーア	七澤 結	清水理沙
ネレーア	河向來実	田中沙友里
アキッレ	栗本 萌	渡辺智美
ウリッセ	一條翠葉	武藤あゆみ
フェニーチェ	亀山泰地	室岡大輝
リコメーデ	目黒知史	水島正樹

合唱：二期会合唱団

管弦楽：ニューウェーブ・バロック・オーケストラ・トウキョウ(NBO)

チケット料金（全席指定・税込）

●5月25日(土)、26日(日)公演

S13,500円 A10,000円 B6,000円 学生2,000円

※チケットお申込みと同時に「二期会オペラ愛好会」へもご入会いただけます。

発売日：二期会オペラ愛好会先行予約 2023年12月16日(土)～

一般発売 2023年12月23日(土)～

チケットのご予約・お問合せ：二期会チケットセンター

TEL.03-3796-1831（月～金=10:00-18:00/土=10:00-15:00/日・祝=休）

<https://nikikai.jp/ticket> 「二期会チケット」で「検索」

その他プレイガイド

チケットスペース 03-3234-9999 <https://www.ints.co.jp> 「チケットスペースオンライン」で「検索」

イープラス <https://eplus.jp/>

チケットぴあ <https://pia.jp/>（Pコード：257-719）

ローソンチケット <https://l-tike.com/>（Lコード：36092）

めぐろパーシモンホールチケットセンター 03-5701-2904

支援：宗次未来基金

主催：公益財団法人東京二期会

共催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団